

昭和四十九年度

部員増加の夢

若宮茂二

当時部員数は、二十数名という少人数でした。部員数増加という点から考慮しまして寒稽古の日数を減らす事を試みました。その結果諸先輩よりお叱りの言葉を受けまして私としましても困った記憶があります。

春には、台湾遠征をさせていただきまして各地で勝利を得まして、よい思い出を学生時代に残す事ができました。東京大会では、一部校が増加する事もありまして、一部入りは試合前より確実視されていきました。第一戦の東京農大戦では、選手がやや固くなりながらも勝ちました。第二戦大東文化大戦では、結果的には負けましたが、内容的にはのびのびした満足のできる試合であったと思います。この大会で、前田君は、東京農大戦では、意識過剰気味の為思う様な試合ができず、先輩より非難の声もあり、試合後私に平素は闘志を出さない方の彼が、次の試合では、絶対勝つと言い、大東文化大戦ではポイントゲッターの一人である安本君を試合開始後払腰で一本を取ったのが印象的でした。

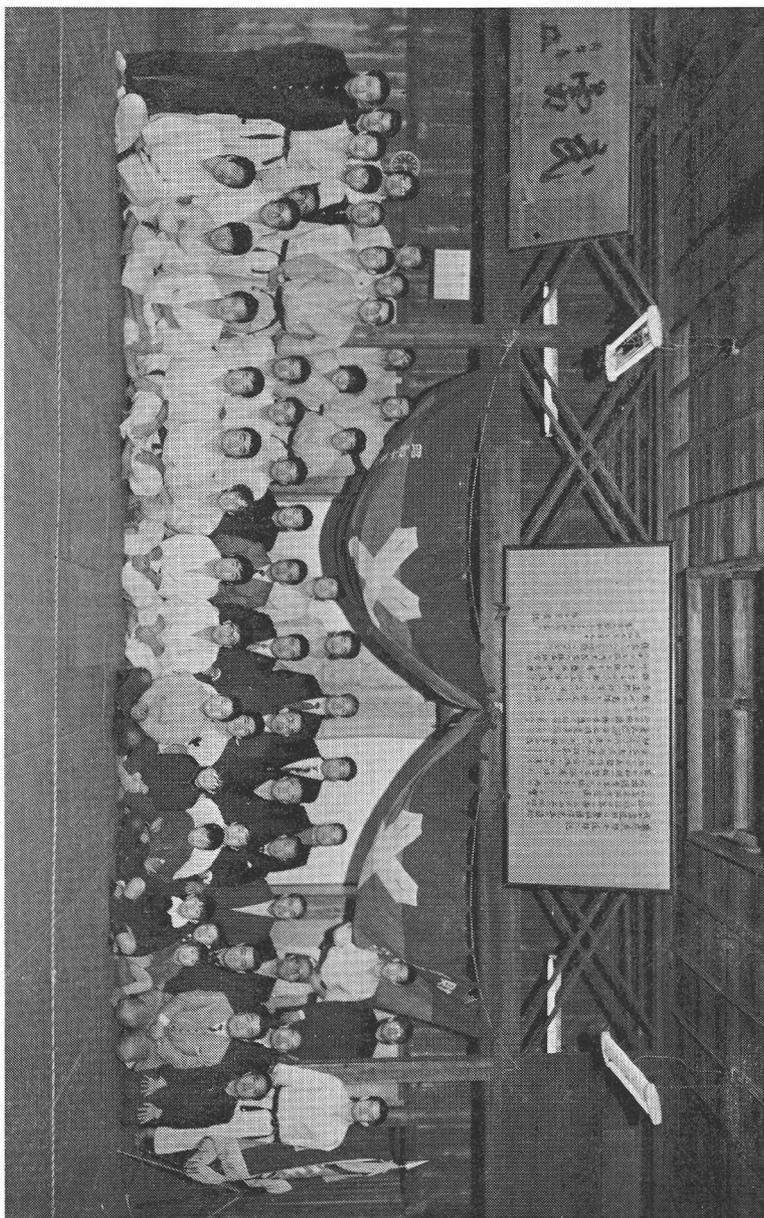
六月に入りまして、全日本学生大会が開催されました。予選リーグ第一戦は最近力をつけてきました金沢工大と当たりました。前田君が引分けの後、次鋒伊藤君が大外刈りで技有りを取り勝ち、五将黒部君が背負投げで一本を取りその後四人とも引き分けて2対0で勝ちました。第二戦は同志社です。前田君は、高校時代の下級生である金刺君と

当たり、互いに得意技を知っており引き分け次鋒伊藤君もよく技を出しましたが引き分けとなり、五将黒部君は、同志社ポイントゲッター横山君と当たり、場外際で払腰技有りを取られ負けてしまいました。中堅の私は、運よく横四方固めで一本取りました。三将植村君は引き分け、副将野見山君は同志社主将の金沢君の執拗な攻撃に押され、横四方固めで負けました。最後の望みを大将松永君にかけましたが、残念ながら上四方固めで負けました。同志社と金沢工大が、一対一の引き分けであったという事で、もう少しの頑張りが欲しかったと思います。

夏の合宿には、館山を選びました。例年は遠征をし、試合をしていましたが、基礎体力の充実という事から練習が中心となりました。きつい練習さながら、魚釣りなどしまして、楽しい面もありました。

秋に入りますと、いよいよ早慶戦です。昨年は惜しくも大将戦で負けてしまったという事で、私たちは全力を尽くし頑張りましたが早稲田の壁は厚く負けてしまいました。

以上が私の昭和四十九年誌であります。一年間、前向きな行動にはリスクがつきものですが、現状維持でも失う物があると考えましていろいろな試みをした次第です。簡単なながらこれにて終えさせていただきたいと思えます。



昭和四十九年卒業生送別記念

月次係	幼稚園コーチ	日吉高校コーチ	体育会専任委員	合宿所副務	副務	〃	〃	〃	〃	幹事	副将	主務	主将	監督	〃	〃	師範	部長
慶田兼信	菅原慈郎	植村一郎	松永幹夫	渡辺雅二 (中等部コーチ)	対馬好一 (幼稚園コーチ)	浅井幸広 (普通部コーチ)	野見山洋朗 (〃)	伊藤哲也 (志木高校コーチ)	高田信哉	足立和美 (学柔連委員)	前田雄弉	高桑君昌 (日吉高校コーチ)	若宮茂二	友田義輔	清水直臣	佐藤毅	清水正一	石川忠雄

寒稽古

年頭の行事である寒稽古は一月十一日から二十日の十日間綱町道場で行なわれた。今年は、記録破りのカラカラ天気で、毎日厳しい寒波の中行なわれたが、幼稚園からOBまで元気に参加、ひと頃のにぎわいは見られないが、それでも五時半から六時までの寝技の稽古ですでに道場内には熱気が感じられた。皆勤者は幼稚園十九名、先輩二十二名を出し、全員で八十名となった。

精勤証 大学一名、先輩橋本(光)

努力賞

先輩 富沢、山際、成毛(雅)、近藤(正)、前田、植草、田中

皆勤証

幼稚園 十九名
普通部 八名
中等部 四名
日吉高校 六名
志木高校 一名
大 学 二十名
先 輩 見玉、石渡、榎井、成毛(英)、高崎、長

島、広瀬、飯塚、成毛(韶)、野口、橋本
(光)、杉浦、大島、友田、渡辺、加藤、西
島、近藤(幸)、清水、山本、河合、滝沢

(二十二名)

体育会功労賞選手章受賞者

功労賞 浜田喜重、金谷重信、沢原俊英
選手章 三名以外なし

卒業生送別試合

二月十日 於 綱町道場

卒業生が三人で、送る現役部員も減少がみで淋しい送別試合となったが、それでも十数名の先輩も集まり、熱戦が展開された。試合後場所を移して、送別会が開かれた。

台湾遠征

三月十四日～三月二十二日

戦後三回目の台湾遠征が、三月に行なわれた。遠征団は賀賀健三部長を団長に一行二十余名、三月十四日羽田を旅立ち九日間の遠征の途につき四時間後無事台北につ

いた。各地で歓迎を受け、招待を受けた見聞をひろめ、十七日台中へ向った。到着後ただちに中興大学体育館において中興大学と対戦し、十五対〇の全勝で第一戦を飾った。十八日には台南に移動し、翌日高雄医学院体育館において高雄医学院と十八人戦を行ない十二対四で勝利をおさめた。

二十日には再び台北に戻り台北市選抜チームと対戦した。結果は九対五(三引分)で第三戦も勝ち、台北学苑で疲れをいやした。翌日、中央警察学校武道場で最終戦を行なった。対戦相手は中央警察学校であったが、十七人戦に十三対二で勝ち、遠征の試合結果を全勝で飾ることができた。夜は台湾三田会と慶応柔道部の主催で夕食会を開き、お世話になった方々を招待し、遠征中のお礼を述べるとともに親交を深めた。二十二日数々の想い出を残し台北をたち、先輩や学生の出迎える羽田に向った。

第十三回東京学生柔道体重別選手権大会

四月二十日 於 講道館

出場選手

軽量級(六十三kg以下)

渡辺 雅二(三年) 野見山洋朗(三年)

輕中量級 (六十三kg~七十kg)	足立 和美 (四年)	黒部 篤志 (二年)
中量級 (七十kg~八十kg)	伊藤 哲也 (三年)	浅井 幸広 (三年)
輕重量級 (八十kg~九十三kg)	前田 雄次 (四年)	慶田 兼信 (二年)
無差別級	植村 一郎 (二年)	若宮 茂二 (四年)
重量級 (九十三kg以上) 不出場		
一回戦	輕量 渡辺	優勢 工藤(亜大)
輕中	〇野見山	優勢 今井(法大)
輕中	足立	優勢 〇山肩(明大)
〇黒部	優勢 齋藤(早大)	
中量	伊藤	上四方 〇新(拓大)
〇浅井	内股 〇塩川(中大)	
輕重	〇前田	内股 〇長谷川(明学)
〇慶田	横四方 〇工藤(国土館)	
無差別	〇植村	優勢 安井(立正大)
〇若宮	送襟絞 〇涌井(東理大)	
二回戦	野見山	優勢 〇森脇(国土館)

輕中	〇黒部	負背投 上村(立正大)
輕重	前田	小内刈 〇寺下(東洋大)
無差別	植村	優勢 〇工藤(東洋大)
三回戦		
輕中	〇黒部	合技 磯野(学習院)
四回戦		
輕中	黒部	優勢 〇秋本(拓大)

この結果、黒部がベスト8にとどまり、他の選手が一、二回戦で敗退したのは、残念であった。

本塾対日本体育大学対抗試合

五月九日 於 日本体育大学
本塾 2 — 5 日本体育大学

先鋒	渡辺 雅二	内股	先鋒 〇北野
野見山	洋朗	払腰	〇佐藤
松永 幹夫	内股	〇堀口	
山本 秀夫	合技	〇藤本	
〇伊藤 哲也	大外刈	〇阿比留	
植村 一郎	引分	釜沢	
浅井 幸広	上四方	〇花井	
若宮 茂二	引分	副将 礎部	
副将 〇前田 雄次	優勢	大将 山本	

本塾 2 — 3 日本体育大学

先鋒 足立和美 合技 先鋒○宮原
 山本秀夫 背負投 ○高寺
 ○松永幹夫 優勢 五十嵐
 副將 高田信哉 合技 副將○齋藤
 大將 黒部篤志 優勢 大將 本多

本塾对上智大学對抗試合

五月十八日 於 濟寧館

本塾 9 — 1 上智大学

先鋒 湯本公庸 固技 先鋒○久郷
 ○蓬来嘉治 背負投 平野
 ○金子正志 内股 永井
 ○山本秀夫 内股 和田
 ○黒部篤志 背負投 山本
 ○野見山洋朗 内股 坂森
 ○慶田兼信 大腰 山根
 ○植村一郎 内股 高萩
 副將 浅井幸広 固技 副將 植田
 大將 伊藤哲也 大外刈 大將 宇佐美

第二十三回東京学生柔道優勝大会

五月二十六日 於 日本武道館

今年から一部校（全日本進出校）の数が十二校から十六校に増え、昨年の二部大会での戦績から本塾はシードされ、一部へ昇格する絶好のチャンスであった。二回戦で東京農業大学と対戦し、順当に勝ちベスト16となり、六年ぶりの全日本出場権を得た。三回戦の対大東文化大学戦では、次鋒前田の跳腰で先取したが、あとが続かず逆に三対一で敗退した。

一回戦 シード

二回戦

本塾 3 — 0 東京農業大学

先鋒 黒部篤志 背負投 先鋒 永松
 ○若宮茂二 小外掛 佐藤
 松永幹夫 引分 池田
 前田雄武 引分 渡辺
 ○伊藤哲也 小外刈 佐藤
 副將 浅井幸広 引分 副將 山本
 大將 野見山洋朗 引分 大將 宮崎

三回戦

本塾 1 — 3 大東文化大学

先鋒 若宮茂二 引分 先鋒 藤川
 ○前田雄武 跳腰 安本
 浅井幸広 大外刈 ○高田
 黒部篤志 引分 早田
 伊藤哲也 合技 ○中村
 副将 慶田兼信 引分 副将 山本
 大将 松永幹夫 崩袈裟 大将○大久保

本塾対東京大学対抗試合

六月五日 於 日吉道場

試合は帝大ルールにのっとり、試合時間六分、副将大将八分、場外なし、引込みあり、技有以上で勝負は一本または合技で行なわれた。不慣れなルールに加え、相手が寝技に引込みにくるため、なかなか技がかげられず、苦戦した。伊藤、植村、黒部が確実にポイントを取り、三人を残して勝った。

本塾 7 — 4 東京大学

先鋒 渡辺雅二 引分 先鋒 辰己
 蓬来嘉治 引分 西畑
 金子正志 釣込腰 ○芦野
 ○黒部篤志 背負投 芦野

○黒部 背負投 松田

黒部 引分 及川

松永幹夫 引分 浅野

田中辰己 引分 中尾

足立和美 合技 ○石原

山本秀夫 引分 石原

○浅井幸広 崩上四方 湯

浅井 片襟絞 ○細谷

慶田兼信 引分 細谷

○植村一郎 横四方 富田

植村 横四方 安田

植村 三角絞 ○宇野

伊藤哲也 崩上四方 宇野

○伊藤 大外刈 副将 森本

伊藤 引分 大将 神野

野見山洋朗 不戦

副将 前田雄武 不戦

大将 若宮茂二 不戦

第二十三回全日本学生柔道優勝大会

六月二十二日 於 日本武道館

予選リーグで本塾は金沢工大と同志社の二校と対戦し

だが、ここで第一位になれば第二日目の決勝トーナメントに進むことが出来る。金沢工大は北信越では圧倒的な強さで優勝したチームだが、次鋒伊藤のきれいな大外刈がまわりすぎて技有り、黒部が技有をとられてからの逆転勝ちを収め、他の選手も苦戦ながら得点を与えず、結局二対〇で辛勝した。対同志社戦では好調黒部が苦手横山君とあたり惜敗、続く若宮が一本取り返したものの、副将、大将がつぶされ三対一で敗れた。

同志社対金沢工大戦は一对一の引き分けになり、僅かな差で決勝トーナメント進出を同志社にさらわれてしまった。

優勝校は昨年に続いて天理大学であった。

第一日目予選リーグ

先鋒	前田雄武	引分	先鋒	堤
○伊藤	哲也	優勢		神原
○黒部	篤志	背負投		赤木
若宮	茂二	引分		藤井
浅井	幸広	引分		玉崎
副将	野見山洋朗	引分	副将	野田
大将	松永幹夫	引分	大将	滝波

本 塾 2 — 0 金沢工業大学

本 塾 1 — 3 同志社大学

先鋒	前田雄武	引分	先鋒	金刺
	伊藤哲也	引分		平田
	黒部篤志	優勢		○横山
	○若宮茂二	横四方		高島
	植村一郎	引分		生地
副将	野見山洋朗	横四方	副将	○金沢
大将	松永幹夫	横四方	大将	○滝波

第二十三回神奈川県高等学校柔道大会

(全国大会予選)

六月二十三日 於 川崎市立橘高校

本塾は五回戦で今大会で優勝した日大藤沢高校と対戦し、故障者も出るなど三対〇で敗退した。この結果、本塾はベスト8にとどまり、二位東海大学附属相模高校、三位南高校および藤沢高校となった。しかし主力のほとんどが一、二年生であり、堂々と試合を勝ち進み、来年の活躍が楽しみである。

一回戦

先鋒	○羽鳥信	先鋒	安部
○山下隆司		安田	

日吉高校 4 — 0

二回戦
 ○大橋 正和
 副将 岡田
 大将 ○竹内 要司
 副将 ○佐藤
 大将 藤田
 厚木高校

日吉高校 2 — 1
 先鋒 羽鳥 信
 山下 隆司
 ○大橋 正和
 副将 田崎 治
 大将 ○竹内 要司
 引分 引分
 副将 市川
 大将 井関
 厚木高校

日吉高校 4 — 0
 先鋒 ○羽鳥 信
 ○山下 隆司
 大橋 正和
 副将 ○田崎 治
 大将 ○深山 隆
 引分 引分
 副将 菅谷
 大将 川口
 県立川崎工業高校

日吉高校 2 — 1
 先鋒 ○羽鳥 信
 山下 隆司
 ○大橋 正和
 引分 引分
 副将 福永
 大将 三橋
 山添
 横浜第一商業高校

五回戦
 副将 田崎 治
 大将 深山 隆
 引分 引分
 副将 ○大津
 大将 石上

日吉高校 0 — 3
 先鋒 羽鳥 信
 山下 隆司
 大橋 正和
 副将 田崎 治
 大将 深山 隆
 引分 引分
 副将 ○上野
 大将 ○小野
 日大藤沢高校

本塾对栃木県警对抗試合

九月七日 於 濟寧館

本塾 3 — 5
 先鋒 湯来 公庸
 蓬来 嘉治
 田中 辰己
 ○足立 和美
 渡辺 雅二
 野見山 洋朗
 金子 正志
 ○黒部 篤史
 ○高田 信哉
 引分 引分
 引分 引分
 優勢 優勢
 縦四方 先鋒 ○小林(皇宮警察)
 優勢 ○鈴木()
 引分 海老名()
 体落 小林()
 内股 ○蔵田()
 引分 四谷
 引分 益子
 背負投 関
 優勢 森川

本塾対法政大学对抗試合

九月十四日 於 日吉道場

本塾 6 — 5 法政大学

先鋒	湯本公庸	送襟紋	○山田
渡辺雅二	引分	先鋒	今井
伊藤哲也	優勢	管谷	遠藤
○蓬来嘉治	背負投	林	○大西
植村一郎	引分	引分	宮原
加藤義康	優勢	引分	内間
松永幹夫	引分	引分	田中
田中辰己	引分	優勢	大外刈
○黒部篤志	優勢	○庄司	竹山
対馬好一	大外刈	○和田	和山
高田信哉	優勢	内股	
木村康治	内股		

第二十六回早慶對抗柔道戦

十月十日 於 講道館

足立和美	絞技	○望月
山本秀夫	引分	辻田
○野見山洋朗	優勢	干明
○慶田兼信	合技	三橋
副將 浅井幸広	引分	副將 石崎
大將 前田雄次	引分	大將 近藤

審判員	八段 醍醐敏郎	八段 安部一郎
本塾	六段 松下三郎	六段 渡辺喜三郎
先鋒	松永幹夫(2)	引分 先鋒 長谷川一幸(2)
○金子正志(2)	優勢	安富祖貞光(2)
金子	上四方	○東浦東(2)

今年も本塾の次鋒が先取し、幸先のよいスタートを切ったが、いつものように二人目になると疲れが表情に出て負けてしまう。早稲田には着実に一人または二人と抜かれ、出始めからジリジリと差をつけられてしまった。一方本塾は一本取るのがやっとで結果は不戦七の大差で敗れた。

波 辺
 ◎黒部
 浅井
 ○松永
 植村
 山本
 金子

十字固
 優勢
 内股
 背負投
 北沢(東京理科大)
 ○伊藤(中大)
 ○新井(早大)
 ○中村(明大)
 ○竹下(日大)

二回戦

野見山
 ○黒部
 松永

十字固
 背負投
 佐藤(日体大)
 ◎柴田(大東文化大)

三回戦

黒部

優勢
 ◎塩川(中大)

日吉高校対早稲田高等学院対抗試合

十月二十日 於 日吉高校

日吉祭の招待試合として恒例になった対抗戦も、一、二年生だけで行なわれたが、今年も点取、勝ち抜きともに楽勝した。抜き勝負では先鋒、次鋒で十人を相手に氣力に満ちた試合で抜き続け、最後は大将でしめくくった。

(点取勝負)

日吉高校 10 — 2 早稲田高等学院

先鋒 島田靖也
 ○尾崎透
 ○深山隆
 ○大橋正和
 鈴木晋一郎
 ○劍持和則
 ○羽鳥信
 楠本公一
 ○相馬紳一郎
 ○三木崇嗣
 森田邦昭
 ○竹内要司
 副将 ○山下隆司
 大将 ○田崎治

先鋒 ○栗原
 首藤
 大塚
 滝本
 ○中西
 竹村
 松本
 栗田
 村山
 山田
 本多
 藤橋
 荒木
 大村

(抜き勝負)

日吉高校 12 — 3 早稲田高等学院

先鋒 ○深山隆
 ○深山
 ○深山
 ○深山
 ○深山
 ○深山

先鋒 竹村
 栗田
 藤橋
 松本
 山田

先鋒 ○深山隆
 ○深山
 ○深山
 ○深山
 ○深山
 ○深山

先鋒 竹村
 栗田
 藤橋
 松本
 山田

三回戦

日吉高校

4 — 1

浅野高校

先鋒 小林勝彦

先鋒 不明

○森田邦昭

長野

◎羽鳥信

金子

副将 ○山下隆司

副将 不明

大将 大橋正和

大将 ○中村

四回戦 ブロック決勝

日吉高校

1 — 0

日大藤沢高校 A

先鋒 小林勝彦

先鋒 白井

森田邦昭

引分

横田

羽鳥信

引分

楠本

副将 ○山下隆司

副将 宮島

大将 大橋正和

引分

大将 河部

五回戦 準決勝

日吉高校

3 — 1

磯工 B

先鋒 小林勝彦

先鋒 ○佐藤

森田邦昭

引分

篠原

◎羽鳥信

板橋

副将 ○山下隆司

副将 川島

大将 ○大橋正和

大将 三浦

決勝

日吉高校

0 — 2

日大藤沢高校 B

先鋒 小林勝彦

先鋒 ○大岡

森田邦昭

引分

飯尾

羽鳥信

引分

野沢

副将 山下隆司

副将 ◎池田

大将 大橋正和

引分

大将 渡辺

日吉高校对桐蔭学園对抗試合

十一月三日 於 桐蔭学園高校

日吉高校

1 — 3

桐蔭学園

先鋒 山下隆司

先鋒 ○中山

○大橋正和

引分

高橋

副将 深田隆

○井上

大将 竹内要司

引分

大将 飯塚

日吉高校

2 — 3

桐蔭学園

先鋒 相馬紳一郎

引分

先鋒 井上

○三木崇嗣

引分

川津

○島田靖也

井崎

副将 田崎治

◎中山

副将 竹内要司

副将 ○高橋

大将 深山隆

大将 ○飯塚

日吉高校 0 — 2 桐蔭学園

先鋒 羽鳥 信

先鋒 中山

相馬 紳一郎

井崎

島田 靖也

高橋

副将 大橋 正和

副将 飯塚

大将 竹内 要司

大将 青山

三戦三敗は予想外の結果であった。全体的には重量の重い方で逆転されるケースが多く気合いが十分入っていなかったことは否めない。桐蔭学園は実力が上っており、来年度から県大会などで大きな敵となつてこよう。

④ 本年も春季、秋季紅白試合が行なわれたが、記録に残っていない。